

平成 30 年度
第 1 学年

シラバス

(学習案内)



埼玉県立川越初雁高等学校

目 次

●シラバスについて	2
●教育課程表	3
●学習について	4
●各教科シラバス	5

各学科に共通する教科・科目

○国語	5
○地理歴史	6
○数学	7
○理科	9
○保健体育	10
○芸術	11
○外国語	13
○家庭／情報	14

シラバスについて

「シラバス (syllabus)」とは、「講義実施要綱・講義内容・達成課題・使用テキスト・参考文献・テスト方法などについて記した計画書。」(『広辞苑』から)です。本校のシラバスでは、1年生の皆さんがこの1年間に学習する教科・科目の内容と評価の概要をまとめています。

高校では中学校と比べて、学習する科目数が多くなります。特に、2年生からは、各自が将来の目指す進路に応じた教科・科目を選択して学習します。皆さんは授業の進行と合わせ、本冊子を効果的に利用して、早め早めに単元の目標を確認し、計画的に学習を進めて下さい。

ところで、2020年(平成32年)に東京オリンピックが開催されます。今16歳の1年生の皆さんが、その時18歳、高校3年生になっています。その頃にはよいよ自分の進路選択、決定が目前となっているわけです。「こんな人間になりたい」とか、「こういう大学で学びたい」とか、「こういう職業に就きたい」と、現段階で具体的に自分の将来像が思い浮かぶ人は少ないのではないのでしょうか。

また、今や高等学校への進学率は、98%を超えています。つまり、高等学校は、ほとんどの人にとって、自分の人生の方向性・将来像を決定づける場となっているわけです。このことについて、学校教育法には、「高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」と定められています。

さらにこの「目的」を実現するための「目標」として、「豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。」「社会において果たさねばならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。」「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。」の3つを掲げています。

皆さんが各教科・科目の学習することの意義は、この高尚な理想ともいえる目標に一步步でも近づいていくことです。日々の授業は、基礎・基本の繰り返しであり、時には目標を見失いそうになることがあるかもしれません。皆さんが道に迷いそうになったときは、このシラバスで、今年学ぶ授業内容や評価の観点、学習への取り組み方を確認し、まずは自分の力で教科書を熟読してみてください。そのように主体性をもって、授業に臨むことが、高等学校で「勉強する」ことの第1歩となります。

さらに、授業が進んでいく過程では、教科担当の先生の評価を踏まえながら、改善に取り組むことによって、学習を効率的に進めることができるはずです。

皆さんがこのシラバスを活用し、高校での学習を成功に導くことを期待しています。

教育課程表

3ページの教育課程表は皆さんがこれから3年間に学習する内容を示しています。

2, 3年生での選択科目については、皆さん一人ひとりの進路希望に応じて選ぶことになりますので、将来どのような道に進みたいのかを考え始めてください。

平成30年度入学生 教育課程

単位数	1年		2年		3年		
	一般	総合進学	一般	総合進学	一般	総合進学(文系)	総合進学(理系)
1	国語総合	国語総合	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B	現代文B
2							
3							
4	地理A	地理A	古典A	古典A	現代文B	現代文B	現代文B
5							
6							
7	数学I※	数学I※	世界史B	世界史B	現代文B	現代文B	現代文B
8							
9							
10	数学A	数学A※	数学II	数学II※	現代社会	現代社会	生物基礎 地学基礎
11							
12							
13	化学基礎	化学基礎	生物基礎	数学II	現代社会	現代社会	生物基礎 地学基礎
14							
15							
16	体育	体育	体育	体育	体育	体育	総合英語
17							
18							
19	音楽I 美術I 書道I	音楽I 美術I 書道I	音楽II 美術II 書道II	音楽II 美術II 書道II	総合英語	総合英語	英語理解
20							
21							
22	コミュニケーション 英語I	コミュニケーション 英語I	コミュニケーション 英語II	コミュニケーション 英語II	総合英語	総合英語	英語理解
23							
24							
25	英語表現I※	英語表現I※	英語表現I	英語表現I	総合英語	総合英語	英語理解
26							
27							
28	家庭総合	家庭総合	家庭総合	家庭総合	総合英語	総合英語	英語理解
29							
30							
31	社会と情報	社会と情報	国語一般(漢字検定) 英語会話(英語検定) 課題研究(パソコン検定)	家庭総合	古典B 数学B コミュニケーション英語III スポーツII	古典B 数学B コミュニケーション英語III	理科課題研究
32							
33							
34	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
35							
36							
37	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR
38							
39							

※1年「英語表現I」は、少人数授業を展開します。1年一般クラス「数学I」・1年総合進学クラス「数学I」「数学A」・2年総合進学クラス「数学II」は、1クラスを2つに分割し、習熟度別授業を行います。この教育課程表は現時点での予定であり、今後変更される可能性があります。(平成30年4月)

学習について

1. 高校では自分で勉強しなければならない

高等学校は義務教育ではありません。極端に言えば、行かなくてもよいところを、皆さんが川越初雁高等学校で学ぶことを選んで入学したのです。川越初雁高等学校での学習活動に積極的に参加し、実力をつけなければ卒業することはできません。中学校では勉強が、もしくは一部の科目が苦手だったという人がいるかもしれませんが、そのままでは進級することができません。気持ちを新たにして授業を一所懸命に聞き、分からないところは質問するという姿勢が必要です。たとえ短い時間でも家で机に向かって勉強するように努めて下さい。最初はきついかもしれませんが、我慢して取り組んでいるうちに苦手だった勉強や苦手だった科目も、それほど嫌でなくなり、得意科目になってしまうかもしれません。是非頑張ってください。教職員一同応援しています。

2. 単位の認定には日ごろの努力が必要である

高等学校では学習する科目ごとに単位の認定、不認定が判定されます。科目ごとに合格と不合格があるということです。基本的には授業にきちんと出て真面目に授業に参加し、試験で合格点を取り、課題や宿題などをしっかりやって期日までに提出するという学習活動が総合的に認められれば、その科目の単位が認定されます。試験で高い点数をとれさえすればよいということではありません。日頃から真剣に授業に参加し、その内容を自分のものにする必要があります。

3. 単位数が多いほど学習量が多い

各科目には単位数が設定されています。たとえば、1年生で学習する国語総合は4単位です。簡単に言うと4単位の科目は、1週間に4時間授業があるということです。単位ごとに出席すべき時間数が決められており、単位数が大きいほど、出席しなければならない時間数は多くなります。

原則として、欠席時間数が基準となる時間数の3分の1となってしまうと、その科目の単位は認められません。その結果進級・卒業ができなくなります。

4. 進級・卒業できない場合

10段階評価で1または2、5段階評定で1を欠点といいます。赤点と呼ばれることもあります。要するに不合格の状態が単位が認められない状況だということです。学年末に1科目でも欠点があると進級できませんし、3年生は卒業できません。欠点科目が2科目までは、追認定検査を受けることができます。3科目以上が欠点科目となった場合はその時点で進級・卒業ができなくなります。追認定検査の結果、合格となり、追加認定されれば進級・卒業できることとなりますが、1科目でも不合格となれば進級・卒業できません。

5. 高校で進級すること、卒業することは簡単ではない

義務教育の小学校・中学校と違って、高校では自分で努力しなければ進級も、卒業もできないことを自覚し、日頃から学習に励んでください。

教科 国語

科目	国語総合	クラス	一般	1	学年	4	単位
授業について	現代文…評論・小説・詩歌などを読み、読解力・思考力を養う。 古文…入門として親しみやすい文章と古典文法を、基礎から学ぶ。 漢文…漢文の規則を基礎から学び、訓読に親しんで、漢文の世界を楽しめる力を養う。						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	年間	現代文 古文 漢文 漢字	随想・小説・評論・詩歌 古文入門・随筆・物語・和歌・軍記 漢文入門・漢詩・語録・史話 漢検4級～3級相当				
評価の観点	①定期考査、課題テスト ②小テスト、提出物 ③授業に対する姿勢						
生徒諸君に 求めること	・学習活動に意欲的に取り組むこと。 ・辞書をひく習慣をつけ、積極的に語彙力を伸ばすこと。 ・予習、復習を心掛けること。						

科目	国語総合	クラス	総進	1	学年	4	単位
授業について	現代文…評論・小説・詩歌等を読み、読解力・思考力を養い、発展させる。 古文…入門として親しみやすい文章と古典文法を、基礎から学び、発展させる。 漢文…漢文の規則を基礎から学び、訓読に親しんで、漢文の世界を楽しめる力を養い、発展させる。						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	年間	現代文 古文 漢文 漢字	随想・小説・評論・詩歌 古文入門・随筆・物語・和歌・軍記 漢文入門・漢詩・語録・史話 漢検4級～3級相当				
評価の観点	①定期考査、課題テスト ②小テスト、提出物 ③授業に対する姿勢						
生徒諸君に 求めること	・学習活動に意欲的に取り組むこと。 ・辞書をひく習慣をつけ、積極的に語彙力を伸ばすこと。 ・予習、復習を心掛けること。						

科目	地理A	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	現代社会が抱える問題について地域性を踏まえて考察できることを目標とする。現代社会は国際化が進み、国境を超えて人やモノが移動をする社会である。しかし、気候や地形、歴史や文化といった条件はその地域によって様々であるため、それぞれの地域を正しく把握することが必要である。						
年間・学期 学習内容		学習計画		主な学習内容			
	年間	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の姿と地球的課題 身近な地域の課題 		<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図からとらえる現代社会 人間生活を取り巻く環境 世界の諸地域の生活・文化 地球的課題と私たち 身近にある様々な地図 日本の自然環境と防災 身近な地域の課題と地域調査 			
価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の得点 課題等の提出物 小テスト等 平常点(出席、授業態度、持ち物等) 						
生徒諸君に 求めること	<ul style="list-style-type: none"> 授業道具(教科書・地図帳・ノートなど)は毎授業必ず用意する。 授業で出てきた地名や国名は指示がなくても地図帳で確認する。 日頃より社会で起こっていることに関心を寄せ、現代社会の動向を知ること。 						

教科 **数学**

科目	数学 I	クラス	一般	1	学年	3	単位
授業について	1クラスを習熟度別に2つに分け、少人数で授業を行う。 教科書の他にプリント等を使用しながら、練習問題を解く。 数学が苦手な生徒に対しては、基礎から学習できる授業を展開する。						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	1学期	第1章 数と式 1節 整式 2節 実数 3節 1次不等式		単項式と多項式、整式の加法・減法・乗法、因数分解 有理数と無理数、平方根 1次不等式の解法、連立1次不等式			
	2学期	第2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 グラフと方程式・不等式		平方完成を用いて、頂点や軸等を求め放物線を描く 因数分解を用いて、2次方程式を解く 2次不等式を解く			
	3学期	第3章 図形と計量 1節 三角比 2節 三角比と図形の計量		三角比の値を求める 三角比の表、正弦定理、余弦定理、三角形の面積			
評価の観点	<input type="checkbox"/> 出席状況 <input type="checkbox"/> ノートやワークなどの提出物 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期考査の点数 <input type="checkbox"/> 授業態度(演習問題に積極的に取り組んでいるか、静かに集中して授業を受けているか)						
生徒諸君に 求めること	まず授業にきちんと参加すること。欠席はしない。 教科書の例題等を解答できるように努力する。例題→教科書の問題→練習問題と進めていきます。 問題集は授業内容を理解できた後に取り組みましょう。粘り強く、授業内容を理解する努力を惜しまずに続けましょう。						

科目	数学 I	クラス	総進	1	学年	3	単位
授業について	1クラスを習熟度別に2つに分け、少人数で授業を展開する。 数学が苦手な生徒でも基礎から学習できるような授業を展開していくが、一般クラスと比べると進度は速く、深く学ぶ。また、毎回の定期考査ごとに点数に応じてクラス分けを行っていく。						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	1学期	第1章 数と式 1節 整式 2節 実数 3節 1次不等式 4節 集合と論理		累乗の計算、乗法公式、展開の工夫、3乗方式、因数分解 数の集まりと四則演算、絶対値、平方根、分母の有理化 不等式の性質、一次不等式、連立不等式とその応用 命題、逆、裏、対偶			
	2学期	第2章 2次関数 1節 関数とそのグラフ 2節 2次方程式・2次不等式		関数、2次関数のグラフ、定義域と最大値・最小値、2次関数の決定 1次関数と1次方程式、2次関数とx軸との位置関係、2次不等式			
	3学期	第3章 図形と計量 1節 三角比 2節 図形の計量		三角比とは、三角比の表、三角比の相互関係、鈍角の三角比 正弦定理、余弦定理、三角形の面積、内接円の半径と面積			
評価の観点	<input type="checkbox"/> 出席状況 <input type="checkbox"/> ノートやワークなどの提出物 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期考査の点数 <input type="checkbox"/> 授業態度 (演習問題に積極的に取り組んでいるか、静かに集中して授業を受けているか)						
生徒諸君に 求めること	<input type="checkbox"/> 授業は静かに集中して受けること。 <input type="checkbox"/> 頭をフル回転させて「考える」こと。数学は「考える」ことの訓練です。 問題を解いて正答を導くことも大切ですが、「考える」ことの方が大切です。 <input type="checkbox"/> しっかりと復習をすること。問題集を使い、学習した日にその日の範囲の演習を終わらせること。						

教科 数学

科目	数学A	クラス	一般	1	学年	2	単位
授業について	1クラスで授業を行う。中学校からの基礎を確認を中心に授業を展開する。教科書の他にプリント等を使用しながら、練習問題を解いていきます。数学が苦手な生徒にも基礎から学習できるような授業を展開していきます。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	中学校の復習 第1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数	中学校の内容の総復習(分数・小数・方程式・不等式 等) 順列・組合せ・P・C・!の計算				
	2学期	第1章 場合の数と確率 2節 確率とその基本性質 3節 いろいろな確率 第2章 整数の性質 1節 約数と倍	確率 独立・排反・反復試行 約数・倍数・最大公約数・最小公倍数				
	3学期	第3章 図形の性質 1節 三角形と比 2節 円の性質	相似・内分・外分・角の二等分線と線分の比・重心・外心・内心・チェバの定理・メネラウスの定理・円周角の定理・円に内接する四角形・円と接線・接弦定理・方べきの定理				
評価の観点	<input type="checkbox"/> 出席状況 <input type="checkbox"/> ノートやワークなどの提出物 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期考査の点数 <input type="checkbox"/> 授業態度(演習問題に積極的に取り組んでいるか、静かに集中して授業を受けているか)						
生徒諸君に求めること	まず授業にきちんと参加すること。欠席はしない。 教科書の例題等を解答できるように努力する。例題→教科書の問題→練習問題と進めていきます。 問題集は授業内容を理解できた後に取り組みましょう。粘り強く、授業内容を理解する努力を惜しまずに続けましょう。						

科目	数学A	クラス	総進	1	学年	2	単位
授業について	1クラスを習熟度別に2つに分け、少人数で授業を展開する。数学が苦手な生徒でも基礎から学習できるような授業を展開していくが、一般クラスと比べると進度は速く、深く学ぶ。また、毎回の定期考査ごとに点数に応じてクラス分けを行っていく。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	第1章 場合の数 1節 数え上げの原則 2節 順列・組合せ	集合とは、部分集合、共通部分と和集合、補集合、ド・モルガンの法則 樹形図、和と積の法則、Pと!の計算、円順列、重複順列 Cの計算、組み分け、同じものを含む順列				
	2学期	第2章 確率 1節 確率とその基本的な性質 2節 独立な試行の確率 3節 条件付き確率 第3章 整数の性質 1節 約数と倍数	事象と確率、積事象、和事象、排反事象、余事象 独立な試行の確率、反復試行、条件付き確率 約数と倍数、倍数の判定法、素因数分解、最大公約数と最小公倍数 除法と公約数				
	3学期	第3章 整数の性質 2節 ユークリッドの互除法 3節 整数の性質の活用 第4章 1節図形の性質 2節円の性質	互除法、不定方程式、2進法、2進数の計算、いろいろな記数法 相似・内分・外分・角の二等分線と線分の比・重心・外心・内心・チェバの定理・メネラウスの定理・円周角の定理・円に内接する四角形・円と接線・接弦定理・方べきの定理				
評価の観点	<input type="checkbox"/> 出席状況 <input type="checkbox"/> ノートやワークなどの提出物 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期考査の点数 <input type="checkbox"/> 授業態度(演習問題に積極的に取り組んでいるか、静かに集中して授業を受けているか)						
生徒諸君に求めること	<input type="checkbox"/> 授業は静かに集中して受けること。 <input type="checkbox"/> 頭をフル回転させて「考える」こと。数学は「考える」ことの訓練です。 問題を解いて正答を導くことも大切ですが、「考える」ことの方が大切です。 <input type="checkbox"/> しっかりと復習をすること。問題集を使い、学習した日にその日の範囲の演習を終わらせること。						

教科 理科

科目	化学基礎	クラス	一般	1	学年	2	単位
授業について	教科書、プリントを主体にしながら、問題集も利用して学習を進めていく。 実験、観察等も必要に応じて行っていく。						
年間・学期 学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	物質の性質 物質の構成粒子 化学結合	物質の三態、蒸留、炎色反応 原子の構造、電子配置と周期表 イオン結合、金属結合、共有結合				
	2学期	物質量と化学変化 酸と塩基	原子量・分子量と物質量、化学変化と量的関係 酸と塩基の定義、水素イオン濃度とpH 中和反応の量的関係、中和滴定				
	3学期	酸化と還元	酸化・還元と電子の授受 金属のイオン化傾向 電池				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業での取り組み ・課題などの提出物 ・定期考査や課題テストの点数 ・実験に取り組む態度 						
生徒諸君に 求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して授業に取り組むこと。 ・授業の復習を必ず行うこと。与えられた課題にしっかり取り組むこと。 ・実験においては、安全第一に、積極的に取り組むこと。 						

科目	化学基礎	クラス	総進	1	学年	2	単位
授業について	教科書、プリントを主体にしながら、問題集も利用して学習を進めていく。 実験、観察等も必要に応じて行っていく。 一般クラスと比べると進度は速く、深く学ぶ。						
年間・学期 学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	物質の性質 物質の構成粒子 化学結合	物質の三態、蒸留、炎色反応 原子の構造、電子配置と周期表 イオン結合、金属結合、共有結合				
	2学期	物質量と化学変化 酸と塩基	原子量・分子量と物質量、化学変化と量的関係 酸と塩基の定義、水素イオン濃度とpH 中和反応の量的関係、中和滴定				
	3学期	酸化と還元	酸化・還元と電子の授受 金属のイオン化傾向 電池				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業での取り組み ・課題などの提出物 ・定期考査や課題テストの点数 ・実験に取り組む態度 						
生徒諸君に 求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して授業に取り組むこと。 ・授業の復習を必ず行うこと。与えられた課題にしっかり取り組むこと。 ・実験においては、安全第一に、積極的に取り組むこと。 						

教科 保健体育

科目	体育	クラス	一般・総進	1	学年	3	単位
授業について	適切な集団行動や自主自律の精神を養う、各種の運動やスポーツに親しみ練習やゲームを楽しむ、総合的な体力の向上を図り安全に留意しながら運動に取り組む資質を養う、といったことを中心に授業を進めます。						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	年間	体づくり運動・集団行動 体育祭練習 球技 器械運動 持久走大会練習 球技 武道		規律を守らせるため、準備運動や補強運動などを理解させる。 体育祭の練習 球技① 器械運動・ダンス 持久走大会の練習 球技② 剣道			
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・指示内容等の遵守状況 ・個人の記録や技能評価テストでの成績 ・技能、技術の向上の有無 						
生徒諸君に 求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・実技教科のため、出席状況が最重要視されます。欠席や見学がないことが大切です。 ・運動能力や技能の優劣だけでなく、明るく元気に意欲的に取り組む姿勢が高く評価されます。 ・集団行動や授業規律、安全に留意して取り組む態度など、学校生活の基本となる事項については厳しく指導します。これらの事項については適切に習得することが求められます。 ・各種の運動やスポーツに親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎づくりができるとういでしょう。 						

科目	保健	クラス	一般・総進	1	学年	1	単位
授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく力や実践力を身につけること、自分の身体や心のしこみを学習することなどを中心に授業を進めます。 ・基本的には、教室での授業になります。教科書と保健ノート、教科担当が用意する補助教材(プリント等)を使用します。 						
年間・学期 学習内容	学習計画			主な学習内容			
	年間	I 現代社会と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・健康のすがた、健康のとらえ方 ・保健活動や対策 ・生活習慣病と日常の生活行動 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・医薬品と健康 ・感染症とその予防 ・エイズとその予防 ・健康にかかわる意志決定・欲求と適応機制 ・心身相関とストレス・自己実現 ・交通事故の現状と要因 ・運転者の資質と責任・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり・応急手当の意義とその基本 			
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業態度 ・考查点 ・保健ノート等の提出物の状況 						
生徒諸君に 求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位(週に1回)の授業なので、欠席しないことが重要です。 ・積極的に授業に参加し、保健ノートや授業時に学習するプリント等はきちんと整理しながら取り組みましょう。 ・基本的には、期末考査のみ実施となるので、相当の得点を得ることが求められます。 ・定期的に保健ノートやプリント等の点検を行いますので、日頃から手を抜くことなく取り組む必要があります。 						

教科 芸術

科目	音楽 I	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	週1回2時間連続で授業を行う。歌唱(発声練習、校歌、独唱、合唱)、器楽や鑑賞の学習を行う。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	校歌、合唱 校歌の試験 独唱曲(イタリア歌曲)の試験 楽譜について	校歌、合唱(様々な曲をたくさん) イタリア歌曲の歌唱と暗記 楽譜の基本的知識の確認、楽譜の書き写し、等				
	2学期	校歌、合唱 独唱曲(イタリア歌曲)の試験 器楽(ピアノ)の試験 コードの仕組み	校歌、合唱(様々な曲をたくさん) イタリア歌曲の歌唱と暗記 ピアノ(キーボード)…片手でメロディーを演奏できるようにする コードの仕組み…ピアノでコード演奏ができるようにする				
	3学期	二重唱の試験 器楽(ピアノ)の習得とアンサンブル 発表	二重唱のアンサンブル ピアノ…メロディーとコードに分かれ、合奏する				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への意欲、態度 <ul style="list-style-type: none"> ①普段から「ステータスマナー」を守るか(私語、遅刻・欠席、忘れ物・提出物、服装、楽器や楽譜などを大事に扱うか) ②学習に必要なコミュニケーションが取れるか、自分からやろうとする積極性があるか ●歌唱、器楽試験の成績 <ul style="list-style-type: none"> 発声の技術、「大きな声を出そう」という意欲や積極性、自分なりに音楽を解釈し音楽表現を行っているか、歌詞の暗記や理解度、演奏の技術の習得、コード等必要な知識の理解度 等を総合的に評価 						
生徒諸君に求めること	<ul style="list-style-type: none"> ●上記の評価の目標について、以下のように取り組むこと。 <ul style="list-style-type: none"> 「授業への意欲、態度」の内容を徹底して守ること。 <ul style="list-style-type: none"> →特に、欠席はしない。休んでしまったら自分から教員に言い、授業内容を確認すること。 「歌唱、器楽試験の成績」の内容を達成するように努力すること。 <ul style="list-style-type: none"> →「大きな声を出そう」とする積極性も評価対象である。「大きな声」という結果を評価する訳ではない。 						

科目	美術 I	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	週1回2時間連続で授業を行う。色や形で作品制作し、なにを使って(素材・道具の理解)、どんなものを作るか(発想力)、どのように作るか(観察力・構想力)、どのように表現するか(描写・造形力)努力して完成させたか(完成度)等、考え方を学び美術の総合力を養う。各学期に随時小課題を行う。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	自分のマークを作る 【絵画・デザイン】	自分を色や形で伝えるマークを制作します。大きさは15cm程度とします。自分の何を伝えるかを決め、どのような色・形にするかを考え、アクリル絵の具で制作します。練習として初めの2回はワークシートで色と形の練習を行います。				
	2学期	ものの形を作る 【彫刻】	観察して立体物を作る課題です。自分が作りたいものを選び、実物や資料をもとに水粘土で制作し、アクリル絵の具で着色します。練習として初めの2回は皆で同じ物を作ります。				
	3学期	ガラスを加工して絵をつける 【工芸】	ガラス、陶器、プラスチックを加工して絵をつける課題です。素材の特質を生かし、使用目的も考慮に入れて図案を考案します。練習として初めにアクリル板に絵をつける練習をします。				
評価の観点	素材・道具の理解力 発想力 観察力 構想力 描写・造形力 完成する力・完成度 授業中の様子や態度 事前調査や準備の状態 より良いものを希求して努力する力 美しさを認める力 自分にとって新たなものを考え、挑む力 歴史や伝統から学ぶ力						
生徒諸君に求めること	美術の作品制作を通していろいろな物事を学ぶ授業です。幾つかの中からより良いものを選んだり一度考えたものをさらに良くするにはどうすればよいかを学ぶことが大切になりますから、一生懸命制作してください。また、授業前の調査や参考資料の持ち込み、材料の用意など、毎時間の準備をしっかり確認して忘れ物がないようにしてください。作品制作には十分に時間を確保してあるので、課題の提出日には与えられた期間分の内容のある作品を提出してください。						

教科 芸術

科目	書道 I	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	週1回2時間連続で授業を行う。古典の臨書を中心とした授業を行う。国語科の書写における学習を基礎にし、芸術科書道との系統性を踏まえ、漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書を鑑賞し、理論を学び、書道の総合力を養う。						
年間・学期 学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	漢字の学習 楷書・行書	楷書(孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑) 行書(蘭亭序・風信帖) の理論・臨書に取り組む。				
	2学期	仮名の学習 平仮名・変体仮名・連綿線・古筆	平仮名(いろは)・変体仮名・連綿線 古筆(高野切第三種・関戸本古今和歌集・元永本古今和歌集・三色紙) の理論・臨書に取り組む。				
	3学期	漢字仮名交じりの書の学習 詩文(詩・短歌・俳句・小説・歌詞)	漢字仮名交じりの書の表現を学ぶ。 漢字と仮名の調和を学ぶ。 構成の変化について学ぶ。 創作に取り組む。				
評価の観点	<p>普段の出席に加え、作品の試行、努力が評価に繋がります。</p> <p>手本を見て、特徴を理解し、表現出来ているかに応じて評価します。</p> <p>古典の形・筆遣い・起筆・終筆・転折・払いなどが、きちんと書けたか。</p> <p>文字の配置は適切だったか。</p> <p>古典の筆遣いに則って書けたか。</p>						
生徒諸君に 求めること	<p>生涯にわたり書を愛好する心情を身につけるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深めることが目的です。</p> <p>実技科目なので、欠席が多いとその分だけ、成績に影響しますので休まず集中して取り組みましょう。</p> <p>練習、清書ともに作品制作には諦めずに取り組み、作品を提出してください。</p>						

教科 外国語

科目	コミュニケーション英語 I	クラス	一般・総進	1	学年	3	単位
授業について	英語表現 I と違い1クラスで授業を行います。教科書の他にプリント等を使用します。まとまった英文を読み、内容を把握することが目標です。苦手な生徒にも分かりやすいように、基礎から勉強をします。						
年間・学期学習内容		学習計画		主な学習内容			
	年間	辞書の引き方 中学校の復習 Lesson 1~11		動詞の過去形 (be動詞、一般動詞の規則動詞と不規則動詞) 現在進行形、過去進行形 助動詞 不定詞、動名詞 受動態 現在完了形 形式主語のit 関係代名詞 比較表現 仮定法			
評価の観点	①定期考査、課題テスト ②小テスト、提出物 ③授業への取り組み(出席等含む)						
生徒諸君に求めること	まず授業にきちんと参加すること。欠席はしない。 提出物は、期限を守って必ず提出すること。 教科書本文の内容を把握し、プリントの問題を解答できるように何度も何度も解いておく。 粘り強く、授業内容を理解する努力を惜しまずに続けましょう。						

科目	英語表現 I	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	一般クラスは2クラスを3つに分け、総合進学クラスは1クラスを2つに分けて少人数で授業を行う。教科書の他にプリント等を使用しながら、練習問題を解いていきます。英語が苦手な生徒にも中学校の復習から学習できるような授業を展開していきます。						
年間・学期学習内容		学習計画		主な学習内容			
	1学期	中学の復習(不規則動詞など)・be動詞・肯定文・否定文・疑問文・命令文・5文型(第1・第2文型)など		be動詞の種類と使い方 一般動詞とbe動詞の違い。疑問文や否定文の作り方。命令文の特徴。5文型とは何か。文型を構成する要素(主語、動詞、補語等)の見分け方。練習問題プリントを解いて定着を図る。			
	2学期	5文型(第3・4・5文型)・現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・未来形・現在完了形など		第3・4・5文型の特徴と各文型を構成する要素(目的語など)の説明。現在形(過去形)と現在進行形(過去進行形)の意味上の違いと書き方の違い。未来形の書き方。現在完了形と過去形の違いと書き方など。練習プリントを解いて定着を図る。			
	3学期	助動詞 (can・may・must・have to・should・will you ~?・Shall I (we) ~?)・受動態など		助動詞と一般動詞(be動詞)の違い。各助動詞の意味。受動態と能動態の違い。書き方。練習問題プリントを解いて定着を図る。			
評価の観点	定期考査、小テスト、提出物、授業への取り組み(出席等含む) 等						
生徒諸君に求めること	まず授業にきちんと参加すること。欠席はしない。 教科書や練習問題プリントの問題を解答できるように何度も何度も解いておく。 粘り強く、授業内容を理解する努力を惜しまずに続けましょう。						

教科 家庭／情報

科目	家庭総合	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に自分自身の問題として学習します。各ホームルームや家庭科室等で講義や実習を行います。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	・人の一生と家族・家庭 ・高齢者の生活と福祉	人生・青年期・家族・家族と社会のつながりについて 高齢化・高齢期・介護について				
	2学期	・消費生活と資源・環境 ・衣生活の科学と文化	家計・消費生活・消費者問題 衣服の機能・手入れ・衣服材料 被服製作				
	3学期	・子どもの発達と保育・福祉	子どもの発育・発達・親の役割・子育てと社会のしくみ				
評価の観点	1 出席状況、提出日等 2 毎時間の授業態度 3 実験・実習等に対する態度 4 授業プリント 5 課題・実験・実習・観察レポート 6 教師による観察 7 筆記試験(定期考査・小テスト)・実技試験 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」です。自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を重視します。						
生徒諸君に求めること	(授業)・教師や友人の発言を真剣に聞き、その内容を的確にまとめる。 ・プリントをまとめたり、実験・実習記録をまとめる。 ・実験・実習は方法や理論を理解し、積極的に活動し技術を修得する。 (復習)・教科書やプリントを見直す。 ・家庭で実技を確認する。						

科目	社会と情報	クラス	一般・総進	1	学年	2	単位
授業について	「伝える」をテーマとし、一年間授業を行い、以下のことを目標とする。 1 情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得する。 2 情報に関する科学的な見方や考え方を養う。 3 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解する。 4 社会の情報化の進展に主体的に対応する能力と態度を身に付ける。						
年間・学期学習内容	学習計画		主な学習内容				
	1学期	ワープロ実習 教科書 理論編1章 情報を活用する	ワープロソフトを活用し、情報を表現する。 情報伝達の基本的な仕組みについて学ぶ。				
	2学期	表計算実習 教科書 理論編2章 ネットワークを探 索する	表計算ソフトを活用し、情報を表現する。 ネットワークの基本的な仕組みについて学ぶ。				
	3学期	プレゼンテーション実習 教科書 理論編3章 情報社会の課 題を見つける	プレゼンテーションソフトを活用し、情報を表現する。 情報モラル、著作権について学ぶ。				
評価の観点	1 出席(実習教科のため) 2 課題 3 定期テスト 4 授業態度 以上のことを総合的に判断し評価する。						
生徒諸君に求めること	教科「情報」は、コミュニケーションの授業であることを理解し取り組んでください。積極的にコンピュータの操作を覚えるはもちろん、相手にどのように情報が伝わるのかを考え授業に取り組んでください。服装・姿勢・心を整え、あいさつ・返事をしっかり行い授業に臨むこと。						

